

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ギター専攻	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書：ギターワークショップ				
担当教員情報					
担当教員	加茂		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
楽器を演奏するには肉体的動作を物理的にコントロールできることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ギタリスト）を想定し、アコースティックエレクトリック両方に対応できるギターのピッキング・フィンガリング・両手のコンビネーション、インプロヴィゼーションに対応できる自由度が高い奏法、パッキングのグルーヴ感の増強、ブローケン・コード奏法の習得、を学ぶ。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、2年次はグレード16～20に準拠して授業が進行する。ハーモニー的には1年次の基礎的なMajorダイアトリックコードから卒業し、テンションコード、ブルーススケール（ドリアン系・ミクソリディアン系・ペンタ系）、マイナーKeyでのアプローチ、をベースとしながらリードシートを読み解きながら独自の演奏を行えるミュージシャンとしての応用力を技能として体得することを到達目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識する。授業中の演奏だけではなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	前期の復習(1)		Spainを前期に学んだテクニックで弾けるようにする。		
2回	ピッキングテクニック(1)		後期グレードに備えて、Technical Difficultiesでオルタネイトピッキングテクニックを整理する。		
3回	ピッキングテクニック(2)		後期グレードに備えて、エコノミーピッキングテクニックを整理する。		
4回	特殊スケール(1)		グレード16対応。メジャー＆マイナースケール以外のスケールについての理解。		
5回	特殊スケール(2)		グレード16対応。メジャー＆マイナースケール以外のスケールについての理解。		
6回	リードシート読解(1-1)		グレード17対応。The Chickenに対してコード毎に7thスケールでアプローチ出来るようにする。		
7回	リードシート読解(1-2)		グレード17対応。The Chickenに対してコード毎に7thスケールでアプローチ出来るようにする。		
8回	リードシート読解(2-1)		グレード18対応。Cantalope Islandに対して独自のインプロヴィゼーションが出来るようにする。		
9回	リードシート読解(2-2)		グレード18対応。Cantalope Islandに対して独自のインプロヴィゼーションが出来るようにする。		
10回	リードシート読解(2-3)		グレード18対応。Cantalope Islandに対して独自のインプロヴィゼーションが出来るようにする。		
11回	ブローケンコード(1)		グレード19対応。コードの分散和音（3和音タイプ、マイナー）を演奏できるようにする。		
12回	ブローケンコード(2)		グレード19対応。コードの分散和音（3和音タイプ、メジャー）を演奏できるようにする。		
13回	ブローケンコード(3)		グレード19対応。コードの分散和音（4和音タイプ、マイナー）を演奏できるようにする。		
14回	ブローケンコード(4)		グレード19対応。コードの分散和音（4和音タイプ、メジャー）を演奏できるようにする。		
15回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル4
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース　ベース専攻	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	教科書：マスタリング・ザ・ベース　Book 1（ATN,inc.）、レジュメを使用する				
担当教員情報					
担当教員	谷　源昌			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン
学習目的					
演奏家にとってリズム、ハーモニー、メロディーを理解することはとても重要である。その為に、個々に合った正しい姿勢（楽器の構え方）を身につけ、左手のフォーム、右手のフィンガリング、両手のコンビネーションをストレスの無い（手に負担の掛からない）奏法を習得することを目的とする。様々なビート（8ビート、16ビート等）でグルーブ感を養う。コード進行を理解して演奏し、読譜力を身につけていく。指板上の運指を研究し、音に表情のある表現力を学ぶことを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、2年次後期はグレード16～20に準拠して授業が進行する。基礎的な運指での基礎トレーニング。メイジャースケール、メイジャー・マイナーペンタトニックスケールからさらに発展させ、Jazz Stadard Tuneなど様々なジャンルのベースラインを研究し、Lattin Styleなど、世界の代表的なGrooveをマスターし、リードシートを読み解きながら演奏を行うことのできるミュージシャンとして、基礎的な技能を体得することを到達目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グルーブレッスン形式で行う。レジュメを使い運指を学び、読譜力を高める。教科書「マスタリング・ザ・ベース　Book 1（ATN,inc.）」では、グレードに対応させながらJazz tuneやLattin Styleなどのコード進行や様々なビートを学ぶ。グレードの内容に応じてオリジナルのマイナスイワンやCDやオリジナルの譜面を用いて授業を行う。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備　考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	Lattin Style Bass（1）		グレード11対応。1度と5度でSambaスタイルのベースラインを演奏できる。		
2回	Lattin Style Bass（2）		グレード11対応。1度と5度でRumbaスタイルのベースラインを演奏できる。		
3回	Walking Line Bass（1）		グレード12対応。循環コードでWalking Line Bassを演奏できる。		
4回	Walking Line Bass（2）		グレード12対応。循環コードでWalking Line Bassを演奏できる。		
5回	Standard Tune（1）		グレード13対応。Fly Me To The moonをBossa Novaで演奏することが出来る。		
6回	Standard Tune（2）		グレード13対応。枯葉を2beatで演奏することが出来る。		
7回	Standard Tune（3）		グレード13対応。枯葉を4beatで演奏することが出来る。		
8回	Standard Tune（4）		グレード13対応。SpainをSambaで演奏することが出来る。		
9回	Imprevisation（1）		グレード14対応。Fly Me To The moonでアドリブ演奏をすることが出来る。		
10回	Imprevisation（2）		グレード14対応。枯葉でアドリブ演奏をすることが出来る。		
11回	Imprevisation（3）		グレード14対応。Spainでアドリブ演奏をすることが出来る。		
12回	Lead Sheet（1）		グレード15対応。セカンダリードミナント7thを理解し演奏することが出来る。		
13回	Lead Sheet（2）		グレード15対応。Substitute Dominant（裏コード）を理解し演奏することが出来る。		
14回	Lead Sheet（3）		グレード15対応。分数コードのベースライン、分数コードのドミナント7thを理解し演奏することが出来る。		
15回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース　ドラム専攻	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回、資料を配布する。　教科書　STICKCONTROL,SYNCOPATION,ドラムパターン大辞典326				
担当教員情報					
担当教員	前田		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
ドラムを演奏するには無理のない姿勢で合理的な体のコントロールができることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ドラマー）を想定し、様々な音符をスムーズに叩き分け、力みのない心地よいキレのある音色、ドラミングを目指し、またそれぞれのリズムの持つ特徴を理解して、その曲がもめているフィーリングを瞬時に見極めるスピードのある対応力を鍛え、人間味のある血の通ったドラムを演奏出来ることを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、2年次後期はグレード16～20に準拠して授業が進行する。後期では、4ウェイトレーニングを通して、両手両足のさらなる自由度の向上、同じ音型を繰り返すオスティナートを使うことによる、グルーブが回る感覚を養い、自らグルーブを生み出せし、ドライブできるようになる。また、ポップスの中でも、取り入れられるラテン、ブラジリアン、ワールドミュージック、その歴史、そのリズムの特徴を理解し、実践で使えるようになる。常にどのような音型であるかを意識して授業に参加してもらい、既存のフレーズ、リズムパターンを自らアレンジできる発想力を身につけ、音楽の現場ですぐに対応できるスキルを手に入れることを目標としている。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（手、指や身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら、受講する。授業中の演奏だけではなく、プロのプレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。				
	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備　考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	4ウェイコーディネーション（1）		グレード16対応。両手両足をバラバラに動かすことができる。		
2回	4ウェイコーディネーション（2）		グレード16対応。3連符の両足のオスティナート上で様々なフレーズが叩くことが出来る。		
3回	4ウェイコーディネーション（3）		グレード16対応。16分音符の両足のオスティナート上で様々なフレーズが叩くことが出来る。		
4回	4ウェイコーディネーション（4）		グレード16対応。サンバキックを使ったオスティナート上で様々なフレーズが叩くことが出来る。		
5回	ラテンスタイル（1）		グレード17対応。ソングの基本パターンが叩くことが出来る。		
6回	ラテンスタイル（2）		グレード17対応。クラベの音型を含んだアフロキューバンパターンが叩くことが出来る。		
7回	ラテンスタイル（3）		グレード17対応。カウベルを使ったモザンビークのパターンが叩くことが出来る。		
8回	ブラジリアン（1）		グレード17対応。基本のサンバパターンを理解し、叩くことが出来る。		
9回	ブラジリアン（2）		グレード17対応。バタフラフラを使ったサンバパターンが叩くことが出来る。		
10回	レゲエ（1）		ワンドロップ、ミリタリアンビートの特徴を理解し、叩くことが出来る。		
11回	レゲエ（2）		ハネ系レゲエパターンが叩くことが出来る。		
12回	アフリカン		代表的なアフリカンリズムを理解し、叩くことが出来る。		
13回	スウィングスタイルでセッション		グレード18対応。レガートを自由に考えて演奏し、セッションすることができる。		
14回	ラテンスタイルでセッション		グレード19対応。ラテンフィールを基にセッションすることができる。		
15回	初見の曲を演奏する		グレード20対応。初見の曲を自分のアイデアで叩くことが出来る。		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	テクニカル4	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース　キーボード専攻		開設期	後期	
対象年次	2年次	科目区分	選択		時間数	30時間	
単位数	1単位	授業形態	実習				
教科書/教材	参考書：キーボードバックिंगまる覚え、ジャズ無窮動トレーニング、ピアノのテクニック						
担当教員情報							
担当教員	佐久間			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的							
楽器を演奏するには自分の指や体を物理的にコントロールし、思いのままに演奏できることが不可欠である。この授業では、前期授業を踏まえ、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームをさらに習得する。プロミュージシャン（ピアニスト、キーボーディスト）を想定し、クラシック式フレーズから左右の各指の独立が出来るようにする。また、鍵盤間の距離を完全に体感し、自分の体の一部のように演奏出来るイメージを作り上げる。二年次は更に難易度の高いテンションコード等の演奏も学び身に付けることを目的にする。							
到達目標							
本科目はグレード対応科目となっており、2年次前期はグレード11～15に準拠して授業が進行する。AnyKeyのメジャー、マイナーダイアトニックコードを網羅し、自分が弾いている音階がきちんとイメージ出来るようになる。更にはsus4、dim、aug、テンションコードなど複雑なバックिंगも苦手意識なく弾けるよう自分のものにする。実際にそれらを弾いているミュージシャンのプレイなども参考にし、確実にマスターすることを到達目標とする。							
教育方法等							
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら受講する。授業中の演奏だけではなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。						
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備　考				
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	ボイスिंग(1)		グレード16対応。コードネームに対してボイスングを考えて演奏出来る。				
2回	ボイスिंग(2)		AnyKeyでのボイスング、展開を変えて演奏出来るなど幅を広げて弾くことが出来る。				
3回	ボイスिंग(3)		与えられたコード進行に対して自分でテンションコードを付けて、更にボイスングを考えて弾ける。				
4回	コード進行作成(1)		グレード17対応。自分でコード進行を8小節以上考えて弾くことが出来る。				
5回	コード進行作成(2)		ジャンル、雰囲気を指定された状態で、それに沿うように自分でコード進行が考えて弾ける。				
6回	ソロ(1)		グレード18対応。まずはピアノソロがある課題曲を練習し、ソロの感覚をつかむ事が出来る。				
7回	ソロ(2)		いわゆるソロと呼ばれる以外にも、イントロやアウトロに使えるようなオブリも含めて弾くことが出来る				
8回	ソロ(3)		与えられたコード進行内で、自分でソロを考えて演奏する事が出来る。				
9回	アンサンブル(1)		グレード19対応。渡されたリードシートを理解し、他の楽器演奏にまぎってバックिंगが出来る。				
10回	アンサンブル(2)		ピアノバックिंगのみならず、エレベ等音色を変えて演奏し、またその意味も理解出来る。				
11回	オリジナル(1)		グレード20対応。オリジナル曲を3曲以上ピアノで演奏出来る。無い場合は一緒に作成できる。				
12回	オリジナル(2)		オリジナルを作って終了ではなく、リハモなど改善の余地がないかどうか一緒に検討する。				
13回	オリジナル(3)		アーティストを想定してオリジナル曲が作成出来る。またピアノアレンジもそのイメージに合わせる事ができる。				
14回	課題		こちらで一年間学んだ分の内容の課題を出し、それに対して演奏し復習を行うことが出来る。				
15回	まとめ		全体のまとめ				